マーケッター明日へのステップ 見参！

マークテック ―その2

（前号よりつづく）

検査する対象物を壊さずに損傷の有無を調べる非破壊検査。非破壊検査関連製品の一翼を担うエアゾール金属探傷剤は、大きく浸透探傷剤と磁粉探傷剤に分けられる。浸透探傷試験とは、試験対象の材質にかかわりなく殆ど全ての材料・製品の表面検査に使用可能。試験体の表面に開口している微細なキズに、見えやすい色や輝きを持たせた浸透性のよい液体（浸透液）を浸み込ませ、再度表面に吸い出すことによりキズを拡大して見つけ出すことができる方法である。染色探傷と蛍光探傷方法があり、それぞれ洗浄剤（除去剤）・浸透剤・現像剤の3液が用いられる。一方、磁粉探傷試験とは、鉄鋼など強磁性材料の表面および表面近傍のキズを検出するのに適した方法。試験体を磁化した場合、表面に磁粉を散布すると磁粉はキズの部分に発生する漏洩磁束に付着する。付着した磁粉によって、実際のキズの幅と比較し数倍から数十倍の幅のキズによる指示模様ができ、容易に目視観察でキズが検出できるようになる。

第二次世界大戦の敗戦から約10年経過した1955（昭和30）年、たくさんの町工場で賑わう東京都大田区大森にマークテックの前身である「特殊塗料株式会社」が創業した。当時は蛍光顔料、蛍光塗料の研究、製造販売を行っていたが、間もなく「第2次世界大戦において米国が多数の航空機の生産やその修理に探傷剤を用いて、検査に好結果を得た」という情報を入手。有機溶剤について技術蓄積があり、その取扱いについて習熟していた同社は、そこに新たな技術と需要の可能性を感じ取り、非破壊検査用品の研究・製造販売に舵を切り事業の柱とした。1956年には浸透液、現像剤、洗浄剤を併せ染色浸透探傷剤「スーパーチェック」（現在のU－STシリーズ）が製品化。開発当時は、まだ浸透探傷法について知識のあるお客様が非常に少なく、現場に出かけ実物でデモを行いながら説明し、その有効性を説明しながら浸透を図っていったと言う。「スーパーチェック」の売上は次第に伸び、さらにより良き製品を目指して絶えず改良を加えた。現在のラインナップは、鉄・非鉄金属のあらゆる材料の探傷に適する「標準型」、ステンレス鋼・チタン合金・ニッケル合金の探傷に適した「低ハロゲン・低イオウタイプ」、そして「不燃性・非危険物」と大きく3つのタイプに分かれ、用途・目的によりさまざまな組み合わせが可能となっている。常務執行役員の小野友弘営業部長によると「昨年の販売実績は計画通りに推移。特に鉄鋼向けが売上を牽引、自動車生産台数も落ちていないことから堅調に出荷されている。プラント向けは、原発の停止や定期検査の規制緩和、石油元売りの工場統合などがあるなか、一部航空機産業向けが伸びている」と語る。

鉄鋼向けが堅調 金属探傷剤

海外展開も視野に 環境・性能開発に注力

金属探傷剤「スーパーチェック」

2001年、マークテックは、①人体に対し安全であること、②環境を汚染しないこと、③省エネルギー・省資源であることの3項目からなる独自のガイドライン「エコ憲章」を定め、「エコ製品」のシリーズ化を開始。そして翌年、エコシリーズからエアゾール染色探傷剤「エコチェック」（E－STシリーズ）を投入した。「スーパーチェック」シリーズと同等の探傷性能を有し、有機溶剤中毒予防規則に非該当、PRTR法に非該当、特定化学物質等予防規則・水質汚濁防止法の指定物質を不使用と生物や環境に優しいエコ製品である。

「環境に配慮するお客様は徐々に増えてきている。引き続きより安全でより環境を重視した製品開発に積極的に取り組むとともに、改正フロン法に対応する新しい不燃用途の開発も視野に入れている」（小野部長）

このほか同社のエアゾール金属探傷剤には、蛍光浸透探傷剤「スーパーグロー」シリーズや、磁粉探傷剤「スーパーマグナ」も揃えられている。また、精密機械等のケガキ用「アオタケゾール」や、工業用脱脂洗浄剤「スーパークリーンSTジャンボ」「パーツクリーナーFTジャンボ」も取り扱っており、「脱脂洗浄剤の売上は右肩上がり、2011年比で出荷量は3倍になっている」としている。

最後に小野部長は、「国内市場は成熟しており、今後グローバルで通用するものを手掛けていかなければならない。各国マーケットのスペックに合わせたものを開発し、さらに現地で通用するようなコスト競争力で、アジアや北米・中南米・欧米を含めた全世界に向けて展開していきたい」と意欲を語っている。

（おわり＝文責・生亀）

会社と製品